

ちゅうごくでんりょくかぶしきかいしゃひきみはつでんしょほんかん
中国電力株式会社匹見発電所本館

1. 建物の概要

| | |
|------|----------------------------|
| 所在地 | 益田市匹見町匹見 |
| 所有者 | 中国電力株式会社 |
| 建築年代 | 昭和3(1928)年 |
| 登録年 | 平成27(2015)年 |
| 構造等 | コンクリートブロック造平屋一部2階建、 鉄板葺 |
| 建築面積 | 199 m ² |



【匹見発電所本館】

2. 沿革

高津川水系匹見川流域の3つの発電所のうち最も上流に位置する現役の水力発電所。現在は中国電力(株)の所有だが、事業開始当初は匹見川水力電気工業(株)の所有であった。匹見川流域では中国山地から流れ込む豊富な水量と急峻な地形を背景に3つの水力発電所が稼働している。

3. 建物の特徴

匹見発電所の平面構成は、西側の大部分を発電機室として東側に制御室を配している。小屋組はトラス構造の鉄骨で屋根は金属板葺の切妻屋根である。

外壁面は妻側に4本、平側に6本の柱型で分割され、妻側中央2本は頂端部を鋭角に張り出した造作がなされており、ゴシック建築のバットレス(控壁)に通じる意匠となっている。また四隅の柱型は妻側、平側ともに大きく、妻面を強調するつくりとされている。柱型間の意匠は共通しており、2段の開口部の上に楕円アーチ状のニッチが据えられている。さらに軒下にはコーニス(軒蛇腹)が付されるなど、洋風建築の意匠が散りばめられており、小規模な教会堂を思わせるが、背後に伸びる水圧管路の存在によって発電所であることを実感させられる建築である。



【小規模な教会堂を思わせる外観】



【妻飾部分に円形のニッチが見える】